

ヒメユズリハのごとく 次の百年に向けて

応用生物科学部 学部長 光永 徹



新型コロナウイルスが「5類感染症」となり個人の選択を尊重し、国民の自主的な取り組みをベースとした対応に代わり、徐々に以前の生活が戻りつつあります。各務同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝にて活躍のこととお慶び申し上げますとともに、平素は同窓会活動に對しまして格別のご高配を賜り、深く感謝申し上げます。

お陰様で、応用生物科学部は今年6月3日に創立100周年記念事業を、来賓の方々や多数の卒業生の皆様方のご参加のもと無事に盛大に執り行う事が出来ました。これもひとえに岐阜高等農林学校から農学部を経て応用生物科学部へと名は変われど、農学の教育と研究の精神を学ばれた卒業生の一一致団結した強い気持ちと、地域のステークホルダーの当学部への期待感の表れであったと実感しています。今年度をもって私は退職します。

ですが、素晴らしい瞬間に学部長として100周年記念事業に携われたことは生涯忘れることのない貴重な思い出となりました。本当にありがとうございました。

応用生物科学部では、令和7年度4月から新生応用生物科学部をスタートするに当たり、現在学部改組を進めています。大きく変わる点は、これまでの2課程5コースを3学科(応用生命化学科、食農生命科学科、生物圏環境学科)体制にし、共同獣医学科を加え4学科に再編する事です。岐阜大学が目指す応用生物科学とは、人類の生存と幸福を目標とする総合科学であります。人を取り巻く環境・食・生命は人類が生存し、幸福であるために欠かす事の出来ない要素であります。そのためには、今世紀地球で起っている環境問題を理解し、それを修復する環境保全への取り組み、環境変動を理解し分析する能力、また動物

との共生を考えた環境修復などを考える力を身に付けること。人が生存するために最も重要な食においては、食品ロスの問題、食品の原料となる植物や動物の機能や生理作用を理解し、SDGsに貢献できる知識の習得、さらに未来食や先制食の開発への挑戦が必要となります。そしてヒト・動物・植物の生命現象と機能を最新のテクノロジーを駆使して解明し、創薬開発など農学にとどまらず、幅広い生命分野で世界と勝負できる研究開発を目指します。環境・食・生命はどれ一つ欠けても目標を達成することはできず、それらが密接につながって有機的に働くことで人類の生存と幸福を達成できるものであります。そして、これらの理念を基盤とする教育研究を応用生物科学部で展開し、脱炭素化社会への対応、スマート農林業の実践、フューチャーグリーン、SDGsへの対応、みどりの食料システム戦略への参画等によって、Next Society5.0の実現に挑戦できます。このように近い将来到来する諸問題に正面から立ち向かい、地域性を生かし、国際貢献でき、次世代社会のニーズへ対応する新たな視点での専門教育の必要性から4学科体制の新たな教育研究組織の構築のための改組であります。

少子高齢化社会そして脱炭素化社会と大学にとっても大変厳しい時代を迎えています。本学部は高校生からの人気も高く、また地域からの期待も大きいことから、地域に貢献し世界に通用する中核大学としての存在感を持つて光り輝くことが出来ています。これもひとえに、同窓生の皆様のご活躍の賜物と深く感謝申し上げます。

100周年記念植樹として、B棟玄関横にヒメユズリハの木を同窓生の岐阜造園様より寄贈していただきました。この植物の名前の由来は、春になつて若葉がのびると、古い葉は、若葉に譲る「ように散る様子を親が成長した子にあとを譲るのになどえて、家系が途切れることなく続く象徴の木である」とのことです。記念すべき100周年を果しのある形で終えることが出来ました。今後は次の100年に向けて、さらなる前進と飛躍を期し、凜子真摯の精神でヒメユズリハのごとく、応用生物科学部が繁栄していきます様、教職員一同精一杯頑張る所存でございます。今後とも同窓生の皆様からの温かいご支援とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



百周年 ご挨拶

各務同窓会会長

柵木 利昭（V大16）



各務同窓会の皆様にはコロナ下4年目、如何お過ごし

でしょうか。平素から各務同窓会の発展にご尽力いただき誠に有難うございます。

岐阜大学農学部・応用生物科学部の前身である官立岐阜高等農林学校が1923年関東大震災の直後、先に開設されていた陸軍各務原飛行場の西隣に創立され100周年を迎えましたことを心よりお慶びし、お祝い申し上げます。4年続いたコロナ感染症の第8波がやっと収束し響のようなマスクを外し、2023年6月3日岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念講演会、植樹、式典並びに祝賀会が各界の御来賓、多数の同窓生及び教職員の皆様のご臨席を賜り挙行できましたことを主催者の一人として厚く御礼申し上げます。

高等農林学校時代は戦争の影響を強く受けてきましたが、改称した岐阜農林専門学校は戦後の学制改革により1949年岐阜大学農学部として再出発しました。高度経済成長やその後のバブル崩壊等の影響を受け、建学の地を離れ、法人化し学部

名を変え学科、課程、講座、研究室名等を変えるなどして改革発展し、2万2千人を超える同窓生が巣立ち各界で活躍しております。

昨今の世情を80と言う数字から見ますと昨年はロシアのウクライナへの軍事侵攻による天然ガス等の高騰を受け、時代に逆行して世界の石炭消費量が初めて80億トンを超えました。また、世界の人口は昨年この100年で4倍の80億人に達する中、日本では出生数が団塊の世代の3分の1以下の80万人を割り込みこれから50年毎年150万人亡くなり、少子多死化は進み77年後の新世紀には日本の人口が半減するとも言われています。

日本は明治維新から昭和20年までの77年は軍事大国への道を歩み、それから昨年までの77年は経済大国への道をそして挫折する中、大学もその影響を強く受けてきました。今まで経験したことのない少子多死の時代これからの日本はどのような国の形を描いていくのでしょうか？文部科学省は2040年の大学進学率を掛け、大学入学者数の推計値を現状の大学の総入学定員62万6千人の8割程度の50万人前後と見込んだ。名古屋大学と経営統合した岐阜大学の応用生物科学部はこれからも社会情勢の影響を強く受けながらも農学の本質を変えることなく芭蕉の言う「不易流行」の道を探り「食と命と

環境」を学び極め貢献していくこととなるのでしょうか？

創立以来連綿と受け継がれてきた農学の100年の伝統を生かし、応用生物科学部がこれからも引き続き魅力ある学部として輝き続け受験生に選ばれ、清流のごとくさらなる100年への発展を祈念いたします。

最後にこの場をお借りして、農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業にご尽力された事業会会長の光永 徹学部長および杉山 誠前学部長、水野隼人前同窓会長、事業会事務局局長平工孝義副会長、会計担当石田秀治先生、記念誌編集委員長向井 譲先生始めご支援いただいた全ての皆様に感謝の意を表し、ご挨拶とさせていただきます。

幹事長からのご挨拶

幹事長 嶋津 光鑑



同窓生の皆様におかれましては、ますます清祥のこととお慶び申し上げます。昨年度

は幹事として1年見習い期間を過ごし、本年度より、各務同窓会幹事長を拝命しました生産環境科学課程応用植物科学コースの嶋津（平成4年生物生産システム学科卒・S大1）と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。幹事長を務めるにあたつ

て、一言ご挨拶申し上げます。

この3年あまりのコロナ禍は、社会生活に大きな影響を及ぼし、各務同窓会もまた活動を大きく制限されました。毎年6月第1土曜日に開催されていた各務同窓会代表委員会が代表委員会を6月4日に岐阜大学サテライトキャンパスにおいて開催できましたが、参加者一同を介した懇親会は取りやめとなりました。そのような厳しい状況の中で、粛々と準備を進めてきました岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業は、6月3日に盛況のうち

に無事に終えることができました（講演会・植樹披露・於岐阜大学）、（記念式典・祝賀会…於岐阜グランドホテル）。準備期間中はまだまだ予断を許さない状況だったのであらゆる想定を検討していましたが、当日は大勢の方にご参加いただき、祝賀会もコロナ禍以前のように久しぶりに旧友や恩師たちとグラスを交わしながら親交を深める時間を過ごすことができました。

これにあわせて、岐阜高等農林学校、岐阜農林専門学校、岐阜大学農学部・応用生物科学部の創立100周年記念誌が刊行されました。本誌は、過去の記念誌同様に各時代の画像、卒業生、歴任教職員の寄稿、現研究室や付属研究機関等の近況、そ

して、本学部100年のあゆみの詳細な資料と記録を掲載しています。100年の歴史があると、学部組織も学科の改組や分野の新設・統合廃止などにより、同窓生の方々は自分の学んだ学科や研究室がどうなったかわかりにくくなっていったかもしれません。このような背景もあり、本誌では各研究室の所属組織や変遷を表にまとめてあります。本資料を参照していただけると幸いです。

前述の2つの事業に加えて教育研究資金のための基金が創設される予定です。これまでに多くの卒業生の皆様より多額の寄付金をご協力いただきましたことに改めてお礼申し上げます。

このように盛会に幕を閉じた100周年記念事業ですが、一方で、活動が困難になった支部の解散や各務同窓会への新規入会者の減少などの問題がコロナ禍によってより顕在化しています。令和6年12月に各務同窓会会員名簿（平成30年以来）が発行予定です。本同窓会ではいただいたデータを適切に管理しています。会員名簿は同窓生の情報共有や地方の支部が存在する地域の会員交流などに役立ちます。充実した名簿作成のため、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

末筆ではございますが、皆様のおますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

創立100周年記念事業を終えて

岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業会
事務局長 平工 孝義

岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念講演会・式典・祝賀会は、令和5年6月3日（土）に柳戸キャンパス及び岐阜グランドホテルにおいて開催し、成功裡に終えることができました。これもひとえに同窓会員や教職員の皆様方をはじめ民間企業や関係団体の方々のご支援とご協力のおかげであり、本当にありがとうございました。

私が岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業会の事務局長を仰せつかりましたのは、平成27年で今から8年前になります。当時の各務同窓会会長の水野隼人氏から創立100周年記念事業会を立ち上げるので事務局長に就任してほしいとの話がありました。水野会長から高齢化や会員減少が続く各同窓会支部を、この100周年を機に少しでも活性化したいので、学部の100周年ではあるが同窓会も積極的に関わりたいとの熱い思いをお聞きし、事務局長を引き受けたことが懐かしく思い出されます。

平成27年9月に県内各支部長による打ち合わせ会が開催され、事業会の規約が成立。学部の教職員と同窓会員で構成する役員会を設置し、第1回役員会を平成29年5月に開催し、それ以降、現在までに21回の役員会を行ってきました。

100周年に向けて弾みをつけるために、平成30年6月2日に各務同窓会代表者委員会に併せて95周年記念講演・祝賀会を柳戸キャンパス内で開催しました。また、募金や事業内容、キャッチフレーズ・ロゴマーク募集、同窓会支部活性化対策、記念誌編集、新型コロナウイルス感染症対策など様々な課題を役員会で協議しました。過去の記念事業や令和元年6月に開催されました岐阜大学創立70周年記念事業を参考にしながら事業計画を作成し、役員で役割分担をして進めてきました。学部の100周年記念事業担当を令和元年・2年度各務同窓会幹事長を務められた石田秀治先生にお願いし、学部内の調整などにご尽力いただきました。また、垣見篤応用生物科学部事務局長や増田章子各務同窓会事務局員など会計や連絡調整等の実質の事務を担当していただきました方々には大変ご苦勞をおかけし、心からお礼申し上げます。

令和3年度に岐阜大学基金に100周年記念事業として寄付ができるよう制度改正が行われたことから、募金を寄付金に切り替えました。その結果、多くの企業や団体、また同窓生や教職員の皆様から多大なるご寄付・ご協賛をいただき、おおむね目標額を達成することができました。ほんとうにありがとうございました。

6月3日当日は季節外れの台風の襲来が心配されましたが、好天に恵まれ、予定通り13時から岐阜大学講堂で講演会を開催しました。ただ、前日の大雨で東京発の新幹線が午前中に運休となったことから、講師をお願いしていました日本中央競馬会第14代理事長の土川健之氏が来岐できなくなり、急遽、オンラインによるリモート講演となりましたが、無事講演会を終えることができました。土川講師には心からお礼申し上げます。

講演会に引き続き、応用生物科学部B棟玄関前に(株)岐阜造園様から寄贈いただきましたヒメユズリハの記念植樹式を行いました。ヒメユズリハは名前の通り「若返り」や「世代交代」の花言葉が付けられており、100周年にふさわしい樹種として選定したものです。植樹の後、川窪伸光先生など教員と学生が一緒になって再生した最古の日本製トラクター「コマツD-219」（1963年製）をキャンパス内で動かす復活デモンストラシヨ

ンを行い、柳戸キャンパスでの行事を終えました。

記念式典は16時から岐阜グランドホテルに会場を移して開催し、各支部の同窓生や教員、来賓の方々など約250名の参加がありました。柵木利昭同窓会長の開式の辞でスタートし、光永徹応用生物科学部長の式辞の後、河合孝憲岐阜県副知事をはじめ4名の来賓の方々にご祝辞をいただきました。続いて100周年記念誌編集委員長の向井讓先生から「写真で見る100年の歩み」、杉山誠副学長から「岐大祭りこしパレード」が映像で紹介され、古き良き時代を懐かしく思い出すことができました。その後、100周年記念事業に様々な面でご支援をいただきました方々に感謝状が贈呈されました。心から感謝申し上げます。

式典・祝賀会会場の入り口付近に設置した学部の100年の歩みをたどることができるパネルには那加キャンパスや寮などの懐かしい写真がたくさん掲示され、参加者の皆さんに熱心にご覧いただきました。

式典の後、18時から記念祝賀会を行いました。柵木利昭同窓会長の開宴の挨拶の後、同窓生を代表して杉山幹夫岐阜新聞社最高顧問と足立葉子岐阜県農政部長のお二人から挨拶をいただき、学生時代の懐かしい思い出話を楽しく聞くことができました。宴会は岐大酒の鏡開き、岩田浩幸日本農業(株)代表取締役社長の乾杯のご発声によりスタート。乾杯のビールは岐阜県食品科学研究所と共同開発した地ビール「岐大エール」で、参加者からは「美味しい!」との声。また、岐阜大学軽音楽部「New Stars Jazz Orchestra」の素晴らしい演奏により祝賀会は大いに盛り上がりました。同窓生同士が話しやすい雰囲気を作るために学科やサークルなどをまとめて配席したことから、各テーブルでは懐かしい話に花が咲き、あっという間に2時間が過ぎました。最後に嶋津光鑑先生の指揮により岐阜大学愛唱歌「我等多望の春にして」を全員で斉唱し、光永徹応用生物科学部長の挨拶により祝賀会を終了しました。熊崎政之元岐阜県職各務同窓会支部長には祝賀会の統括担当としてご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

記念事業を行うにあたって、会場準備や参加者の受付・誘導など裏方となるスタッフには、学部の教職員の皆さんや岐阜県職各務同窓会支部と岐阜支部の同窓生の皆さんに従事していただき、厚く御礼申し上げます。この記念事業を行うにあたって、学部と同窓会がこれほどまでに連携を密にして実施できたことは従来には無かったことであり、大きな意義があったと思っています。

6月3日に行いました記念事業のほか、農学部・応用生物科学部創立以来100年の歴史が詳細に綴られた総ページ数528ページ、100名を超える寄稿者による記念誌を向井讓編集委員長が中心となって作成いただき、刊行されました。また、同窓会支部の活性化を目的とした同窓会活動活性化事業を創設し、3件の申請がありましたので報告させていただきます。

最後になりますが、100周年記念事業を無事終えることができましたのは、皆様方のご支援・ご協力によるもので、改めて感謝申し上げるとともに、事務局として十分に対応できなかったことが多々あったものと思いますがお許しいただきますようお願い申し上げます。この100周年が、今後、同窓会の会員確保や活性化など課題解決につながるステップとなり、各務同窓会と応用生物科学部がさらに発展することをご期待申し上げ、記念事業の報告とさせていただきます。



式典の様子(岐阜グランドホテル)



講演会の様子(岐阜大学講堂)



祝賀会鏡開きの様子(岐阜グランドホテル)



記念植樹式の様子(応用生物科学部B棟前)



クラシックトラクター復活デモンストレーション



100周年の歩みパネル展示(岐阜グランドホテル)

岐阜大学基金特定事業／岐阜大学農学部・
応用生物科学部創立100周年記念事業

【令和4年度】

＜収入の部＞		
科 目	実績額	備 考
寄付金	13,172,000	3月末までの部局への振替分
合 計	13,172,000	

＜支出の部＞		
科 目	実績額	備 考
事業費		
記念講演会		
旅費・交通費	38,840	打合せ（東京）
クラシックトラクター		
消耗品	30,458	
記念誌		
印刷・製本	2,497,000	企画・編集・編纂分
管理費		
印刷・製本	536,690	寄付依頼、招待・案内状
郵送料・送料	151,604	寄付依頼、招待・案内状
旅費・交通費	19,100	寄付依頼
合 計	3,273,692	

差引収支	9,898,308	次年度繰り越し
------	-----------	---------

【令和5年度】

令和5年9月15日現在

＜収入の部＞		
科 目	実績額	備 考
前年度繰り越し	9,898,308	
寄付金	345,000	
合 計	10,243,308	

＜支出の部＞		
科 目	実績額	備 考
事業費		
記念講演会		
旅費・交通費	5,780	打合せ（栗東）
行事費	165,600	看板作成・設置・講堂使用料ほか
印刷・製本費	638,000	案内チラシ
謝金	106,800	講演謝金ほか
記念植樹式		
消耗品	3,075	白手袋、バケツ
雑費	1,300	クロススクリーニング
記念式典他		
行事費	551,175	会場費、看板ほか
印刷・製本費	1,027,400	プログラム、感謝状
消耗品	125,346	リボン、額、パネル、名札
消耗品等	313,400	オリジナルバッグ、ボールペン
謝金	50,200	司会者
行事費（その他）	418,000	シャトルバス
記念誌		
印刷・製本費	3,102,000	記念誌印刷・製本、DVD分
岐大祭みこしDVD		
役務等	968,000	
管理費		
郵送料・送料	546,406	感謝状、記念誌
消耗品	667	コピー用紙
合 計	8,023,149	

差引収支	2,220,159	
------	-----------	--

※残額については、応用生物科学部の教育研究資金として活用する予定で、
創立100周年記念事業会役員会で検討します。

岐阜大学農学部・応用生物科学部
創立100周年記念事業会

【平成28年度～令和4年度】

＜収入の部＞		
科 目	実績額	備 考
同窓会より	1,000,000	
募金	4,055,000	
広告掲載料	1,370,000	
95周年参加費	54,000	
50周年会計残組入れ	258,802	
祝賀会会費	1,230,000	
利息	122	
合 計	7,967,924	

＜支出の部＞		
科 目	実績額	備 考
会議費	14,674	お茶等
事務費	76,945	通信料、振込手数料等
旅費	44,504	役員会旅費、打合せ旅費
事業費	533,903	100周年趣意書等印刷物（R2以降）・ 大学基金リーフレット印刷等
雑費	335,525	95周年記念事業（H30）・100周年趣 意書等印刷物（R元）等
合 計	1,005,551	

差引収支	6,962,373	次年度繰り越し
------	-----------	---------

【令和5年度】

令和5年9月15日現在

＜収入の部＞		
科 目	実績額	備 考
前年度繰越	6,962,373	
募金	50,000	
広告掲載料	310,000	
祝賀会会費	540,000	
利息	25	
合 計	7,862,398	

＜支出の部＞		
科 目	実績額	備 考
会議費		
お茶等	2,050	
事務費		
通信料	14,485	
振込手数料	4,290	
消耗品	21	
旅費	0	
事業費		
《講演会》		
お弁当代7人分	22,680	
《祝賀会》		
スタッフ用お茶	4,757	
謝礼図書カード@5,000×8	40,000	
ビニール袋（ビール用）	406	
アナウンサー謝金	50,000	
岐大ビールラベル代	68,200	
岐大酒	124,960	
菰樽関連	194,502	
岐大ビール@400×475本	209,000	
グランドホテル支払い	2,163,490	会場費 100,000
		飲食代 1,763,220
		その他（資材使用料等） 300,270
会費返金		
4名分	40,000	
同窓会活性化事業助成金	70,000	1団体、1支部
合 計	3,008,841	

差引収支	4,853,557	
------	-----------	--

令和5年度岐阜大学各務同窓会役員

名 誉 会 長	光 永 徹	
会 長	柵 木 利 昭	（V大16）
副 会 長	箕 輪 光 顕	（A大20）
	平 工 孝 義	（A大25）
	荻 巢 雅 俊	（F大31）
	伏 見 知 彦	（C大18）
	北 川 精 一	（V大18）
	村 山 巖	（E大23）
	川 島 光 夫	（P大7）
相 談 役	杉 山 幹 夫	（M1）
	中 村 孝 雄	（N大7）
	水 野 隼 人	（C大15）

令和5年度幹事長、幹事及び監事

幹事長		嶋津 光鑑	（生産環境科学課程）
幹 事	（庶務・幹事長代理）	齋藤正一郎	（共同獣医学科）
	（事業）	石田 秀治	（応用生命科学課程）
	（会計）	二宮 茂	（生産環境科学課程）
監 事		浅野 玄	（共同獣医学科）
		鈴木 正嗣	（共同獣医学科）

令和4年度 支部総会開催状況

支部名	期日	出席者
石川県	7月2日	鈴木正嗣
岐 阜	7月10日	柵木会長・石田秀治
中 濃	11月2日	山田邦夫

各務同窓会報

令和4年度各務同窓会決算報告

自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 会費	7,480,000	4,223,100	△ 3,256,900
入会金＋終身会費	7,380,000	4,200,000	△ 3,180,000
卒業生分(年会費＋終身会費)	100,000	23,100	△ 76,900
2. 利子	74	28	△ 46
3. 雑収入	600,000	578,500	△ 21,500
4. 基本金特別会計より繰り入れ	1,000,000	1,000,000	0
当期歳入合計(A)	9,080,074	5,801,628	△ 3,278,446
前年度繰越収支差額	2,348,367	2,348,367	0
歳入合計(B)	11,428,441	8,149,995	△ 3,278,446

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 事務費	1,999,500	1,967,245	△ 32,255
消耗品費	10,000	3,033	△ 6,967
人件費	1,800,000	1,729,000	△ 71,000
通信費	60,000	59,352	△ 648
旅費	26,000	23,000	△ 3,000
終身会費返金	100,000	150,000	50,000
雑費	3,500	2,860	△ 640
2. 会議費	853,000	561,445	△ 291,555
代表委員会費	50,000	89,385	39,385
代表委員会旅費	800,000	470,520	△ 329,480
役員会費	3,000	1,540	△ 1,460
3. 事業費	2,320,000	2,342,606	22,606
会報等印刷費	600,000	600,000	0
会報郵送費	900,000	906,700	6,700
会報発送雑費	780,000	799,526	19,526
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	30,000	26,380	△ 3,620
4. 名簿関係費	7,500	0	△ 7,500
発送費	7,500	0	△ 7,500
5. 慶弔費	50,000	10,000	△ 40,000
6. 支部総会派遣費	500,000	38,880	△ 461,120
7. 卒業・修了祝賀会賛助費	150,000	0	△ 150,000
8. 予備費	70,000	7,000	△ 63,000
当期歳出合計(C)	5,950,000	4,927,176	△ 1,022,824
当期収支差額(A)-(C)	3,130,074	874,452	△ 2,255,622
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,478,441	3,222,819	△ 2,255,622

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 終身会費	0	0	0
新入生分	0	0	0
卒業生分	0	0	0
2. 雑収入	0	0	0
3. 利子	1,100	818	△ 282
当期歳入合計(A)	1,100	818	△ 282
前年度繰越収支差額	55,011,180	55,011,180	0
歳入合計(B)	55,012,280	55,011,998	△ 282

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 一般会計への繰入	1,000,000	1,000,000	0
2. 振込料	0	0	0
当期歳出合計(C)	1,000,000	1,000,000	0
当期収支差額(A)-(C)	△ 998,900	△ 999,182	△ 282
次期繰越収支差額(B)-(C)	54,012,280	54,011,998	△ 282

3. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

(単位：円)

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 基本金特別会計より繰入	0	0	0
2. 利子	44	41	△ 3
3. 会費	0	1,230,000	1,230,000
4. 広告料	0	1,370,000	1,370,000
当期歳入合計(A)	44	2,600,041	2,599,997
前年度繰越収支差額	4,478,779	4,478,779	0
歳入合計(B)	4,478,823	7,078,820	2,599,997

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決算額	比較増△減額
1. 事務費	100,000	11,849	△ 88,151
2. 会議費	100,000	4,534	△ 95,466
3. 旅費	200,000	18,734	△ 181,266
4. 事業費	400,000	81,330	△ 318,670
5. 人件費	1,700,000	0	△ 1,700,000
6. 雑費	50,000	0	△ 50,000
当期歳出合計(C)	2,550,000	116,447	△ 2,433,553
当期収支差額(A)-(C)	△ 2,549,956	2,483,594	5,033,550
次期繰越収支差額(B)-(C)	1,928,823	6,962,373	5,033,550

4. 資産現在高

(単位：円)

項目	年度始現在高	現在高
1. 一般会計	2,348,367	3,222,819
2. 基本金特別会計	55,011,180	54,011,998
3. 百周年記念事業	4,478,779	6,962,373
合計	61,838,326	64,197,190

5. 資産保管状況

(単位：円)

項目	一般会計	基本金会計	百周年記念事業会
1. 現金	11,816		
2. 普通預金			
大垣共立銀行			
十六銀行	3,172,206	397,609	5,732,373
三井住友信託銀行		3,572,799	
郵便局	38,797		
みずほ銀行		2,583,595	
3. 定期定額貯金			
大垣共立銀行		9,613,488	
十六銀行		21,844,507	
三井住友信託銀行		16,000,000	
4. 振替貯金	0	0	1,230,000
合計	3,222,819	54,011,998	6,962,373
総計		64,197,190	

令和5年度各務同窓会予算(案)

収支予算書 (令和5年4月1日～令和6年3月31日まで)

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	増減
1. 会費	5,665,000	7,480,000	△ 1,815,000
入会金＋終身会費	5,565,000	7,380,000	△ 1,815,000
卒業生分(年会費＋終身会費)	100,000	100,000	0
2. 利子	56	74	△ 18
3. 雑収入	600,000	600,000	0
4. 予備費(基本金特別会計より繰入)	0	1,000,000	△ 1,000,000
当期歳入合計(A)	6,265,056	9,080,074	△ 2,815,018
前年度繰越額	3,222,819	2,348,367	874,452
歳入合計(B)	9,487,875	11,428,441	△ 1,940,566

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	増減
1. 事務費	1,999,500	1,999,500	0
消耗品費	10,000	10,000	0
人件費	1,800,000	1,800,000	0
通信費	60,000	60,000	0
旅費	26,000	26,000	0
終身会費返金	100,000	100,000	0
雑費	3,500	3,500	0
2. 会議費	603,000	853,000	△ 250,000
代表委員会費	0	50,000	△ 50,000
代表委員会旅費	600,000	800,000	△ 200,000
役員会費	3,000	3,000	0
3. 事業費	2,320,000	2,320,000	0
会報等印刷費	600,000	600,000	0
会報郵送費	900,000	900,000	0
会報発送雑費	780,000	780,000	0
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	30,000	30,000	0
4. 名簿関係費	5,000	7,500	△ 2,500
発送費	7,500	7,500	0
5. 慶弔費	50,000	50,000	0
6. 支部総会派遣費	500,000	500,000	0
7. 卒業・修了祝賀会賛助費	150,000	150,000	0
8. その他雑費	70,000	70,000	0
当期歳出合計(C)	5,697,500	5,950,000	△ 252,500
当期収支差額(A)-(C)	567,556	3,130,074	△ 2,562,518
次期繰越額(B)-(C)	3,790,375	5,478,441	△ 1,688,066

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予算額	前年度予算額	増減
1. 終身会費	0	0	0
新入生分	0	0	0
卒業生分	0	0	0
2. 雑収入	0	0	0
3. 利子	1,080	1,100	△ 20
当期歳入合計(A)	1,080	1,100	△ 20
前年度繰越額	54,011,998	55,011,180	△ 999,182
歳入合計(B)	54,013,078	55,012,280	△ 999,202

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	増減
1. 一般会計への繰入	0	1,000,000	△ 1,000,000
2. 振込料	0	0	0
当期歳出合計(C)	0	1,000,000	△ 1,000,000
当期収支差額(A)-(C)	1,080	△ 998,900	999,980
次期繰越額(B)-(C)	54,013,078	54,012,280	798

3. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

(単位：円)

勘定項目	予算額	前年度予算額	増減
1. 広告掲載料	310,000	0	310,000
2. 会費	500,000	0	500,000
3. 利子		44	13
当期歳入合計(A)	810,057	44	810,013
前年度繰越額	6,962,373	4,478,779	2,483,594
歳入合計(B)	7,772,430	4,478,823	3,293,607

(2) 歳出の部

勘定項目	予算額	前年度予算額	増減
1. 事務費	200,000	100,000	100,000
2. 会議費	100,000	100,000	0
3. 旅費	200,000	200,000	0
4. 事業費	4,000,000	400,000	3,600,000
5. 人件費	600,000	1,700,000	△ 1,100,000
6. 同窓会活性化事業助成金	300,000	0	300,000
7. 雑費	50,000	50,000	0
当期歳出合計(C)	5,450,000	2,550,000	2,900,000
当期収支差額(A)-(C)	△ 4,639,943	△ 2,549,956	△ 2,089,987
次期繰越額(B)-(C)	2,322,430	1,928,823	393,607



学園だより

課程等の近況

◆応用生命科学課程

大学院修士課程には63名が入学しています。

同窓生の皆様には、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。本年度も光永徹教授が学部長（4年目）として、また西津貴久教授が副学部長（筆頭）として学部の運営を担われますので、本課程は石田が課程長を務め、分子生命科学コース長の中川寅教授、食品生命科学コース長の矢部富雄教授のご協力を頂きながら本課程の発展に尽力したいと思っております。皆様のご指導を宜しくお願い申し上げます。

当課程は、本年3月に学部卒業生88名を送り出し、そのうち53名が大学院修士課程に進学しました。修士課程修了者は56名で、そのうち8名が岐阜大学連合農学研究科博士課程に進学しました。この4月には、本課程に86名の新入生及び7名の3年次編入学生を迎え入れました。

続いて教員の動向をお知らせします。昨年10月に食品生命科学コースに中川香澄助教（食品発酵学）が着任されました。また、本年10月に、鈴木徹先生の後任として分子生命科学コースに谷元洋教授（ゲノム微生物学）が着任されました。一方、来たる3月に3名の先生、岩橋均教授（応用微生物学）、光永徹教授（天然物利用化学）、長岡利教授（食品分子機能学）が定年退職されます。先生方のこれまでの本課程へのご貢献に心より感謝申し上げます。明年3月8日には、3名の先生方の最終講義を予定しておりますので、是非、御来聴を賜ればと思います。

現在、本学部では、共同獣医学科を除く2課程（応用生命科学課程と生産環境科学課程）が3学科に再編される改組案が検討されています。まだ、最終決

定ではありませんが、本課程のうち分子生命科学コースは応用生命科学科（仮）、食品生命科学コースは食農生命科学科（仮）に含まれる案となっております。末筆乍ら、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

（石田秀治）

◆生産環境科学課程

皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。本年は環境生態科学コースの乃田啓吾准教授（水環境学研究室）が3月末をもって東京大学農学生命科学研究科生物環境工学専攻水環境工学研究室准教授として転出されました。先生は灌漑排水を中心とする農村地域の水環境研究のホープで、近年は生態系サービスや流域治水といったキーワードで周辺分野と積極的な共同研究を進めてこられました。また、当課程の研究・教育、学生指導に多大な貢献をされ、位山演習林・柳戸試験林の発展に尽くされた応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究

センターの石田 仁准教授（山地管理学）が3月末をもって退職されました。先生は統合移転40年を経て稚樹から豊かな森に成長した柳戸キャンパスの樹木マップを作成され、身近な自然環境の大切さを教えてくださいました。両先生が去られた今、当課程に残された大きな足跡を改めて感じております。今後ますますのご発展をお祈り申し上げます。昨年度末（本年3月）の学位記授与式では、船津沙月（学長表彰）、菅原早紀（研究科長表彰）、藤岡実優（学部長表彰）、坂原優里・林 明日香（同窓会表彰）、大谷 昂（専攻長表彰）の各氏が学業優秀者として表彰されました。来年度に設立20年を迎える当課程は、高い志を持って全国から集まる多くの学生に支えられています。今後も社会課題解決への貢献に資する教育・研究をいっそう推進してまいります。

（岩澤 淳）

◆共同獣医学科

新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが5類に移行し、以前の生活に戻りつつありますが、各務同窓会の皆様におかれましては、なおご苦労が多いことと拝察致します。

共同獣医学科の現況をお知らせ致します。本学科は11年目に入り、今年度は73名（岐阜大学33名（男性15名、女性18名）、鳥取大学40名（男性15名、女性25名））の新入生を迎えました。出身地は愛知県16名、大阪府と兵庫県各8名、岐阜県5名などであり、岐阜大学には東海地方からの入学者が多く、鳥取大学には関西地方からの入学者が多いのが特徴になっています。また、3月には第5期生71名（岐阜大学33名、鳥取大学38名）が卒業しました。2月に実施された獣医師国家試験では、岐阜大学の新卒者33名のうち合格者が23名（69.7%）という大変、厳しい結果となりました。鳥取大学では38名のうち35名が合格（92.1%）しております。令和5年度の受験生は気を引き締め

各務同窓会報

て取り組むことと期待しています。

教員人事では、令和5年4月1日付けで基礎獣医学講座に病態生理学研究室を新設し、生理

学研究室准教授の椎名貴彦先生が初代の教授として着任しました。また、獣医病理学研究室の平田暁大助教が准教授に、獣医内科学研究室の西飯直仁准教授が教授に昇任しました。同じく4月1日に獣医臨床放射線学研究室の准教授に永田矩之先生が、附属動物病院専任教員（先端獣医療担当）准教授に堀切園裕先生が着任しました。一方、獣医臨床繁殖学研究室の高須正規准教授は、4月1日付けで高等研究院准教授に異動しました。

共同獣医学科では、国際通用性のある社会性豊かな獣医師養成を目指して、教育研究環境のさらなる改善充実を目指して参ります。今年度もご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。末筆ながら同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。

（共同獣医学科長 鬼頭克也）

◆◆ 連合農学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本研究科では、野村友里連合大学院事務室長が学務部に異動となり、日比野崇氏を室長として迎えました。国際関係の事務補佐員の櫻井菜保美氏

が都合により、同じく栗本薫乃氏が任期満了により退職されました。また、キャリアパスコーディネータとして学生の就活を支援していただいていた千原英司特任教授も9月末をもって任期満了となり退職されることとなります。異動、および退職される皆様の新天地でのご活躍をお祈りいたします。中野浩平研究科長補佐（専任教員）、矢部富雄研究科長補佐（国際担当）、青木考一郎係長、高橋洋子主任、および、係員3名は変わらず研究科の管理運営に努めております。

研究科の重要事項を決定する代議員会には、今村彰宏先生、中川智行先生、西村眞一先生、八代田真人先生、小林佑理子先生にご参画いただいております。

昨年度の学位授与者は課程博士19名、論文博士4名であり、また、入学生については、本年度4月のみで22名となっており、すでに定員をやや上回っております。

また、在籍者は総数117名で、うち63名が外国人留学生、36名が社会人学生となっております。

協定校との交流も徐々に再開され始めました。昨年に訪問したマリアノマルコス州立大学、キングモンクット工科大学ラカバン校が、本年度には逆に岐阜大学を訪問してくれるなど、相互の交流が活発になってきています。また、リトアニアのヴィータウタス・マグナス大学とも共同学位（ジョイントディグリー）を目指した協議を開始しております。

本研究科は大学の国際化、国際社会への貢献をミッションの一つとしておりますので、今後も国際化事業を強化していく所存です。

本研究科が国内外における農学の拠点となることを目標に努めて参りたいと思っておりますので、引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。末筆

になりますが、同窓会会員諸氏のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

（平松 研）

◆◆ 連合獣医学研究科

各務同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

令和4年度の本研究科の学位授与者数は課程博士4名で、学生5名が在籍しております。

在学する学生の多くは社会人学生で、様々な理由で学位取得が遅延していますが、仕事と学業を両立させながら学位取得を目指しています。これまでの歴史と伝統に基づく学位の質が落ちることのないように本研究科の教職員が取り組んでいます。

これまで、課程博士608名、論文博士176名を輩出してき

ました。連合獣医学研究科で学位を取得した方々は、大学や国公立の研究機関の他、製薬業界の民間研究機関等で活躍してい

ます。このような人材輩出を実現できたことはこれまで多くの方々に多大なご協力をいただき、多くの先生方のご指導の賜物と感謝しております。このような

連合獣医学研究科の初期にご尽力いただいた先生方の一人である金城俊夫先生が令和5年7月16日に90歳でお亡くなりになりました。金城先生は本研究科の発足時の農学部長で2代目の研究科長、その後本学学長を歴任されました。心よりお悔やみ申し上げます。

今後ともご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。（浅井鉄夫）

◆◆ 共同獣医学研究科

各務同窓会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

大学院共同獣医学研究科は、連合獣医学研究科を引き継いで令和元年度に開設されました。昨年度は、標準年限で修了した1期生2名が博士号を取得しま

各務同窓会報

した。優秀な成果をあげ3年間で短縮修了した1名を加えて合計3名が学位を取得しています。現在、25名の大学院生が在籍しており、日本人学生が21名、留学生が4名です。日本人学生のうち12名は社会人学生であり、仕事をやりながら研究活動にも取り組んでいます。

共同大学院のパートナーは鳥取大学ですが、両大学の大学院生が一堂に会して論議することのできるプログラムが、コロナ禍にあつて実施できない状況が続いていました。今年はこのプログラムが実施できました。人脈を形成することも博士課程の学生にとって重要なことです。で、有意義な時間であつたと思います。

末筆ながら、同窓生の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(志水泰武)

◆附属岐阜フィールド科学 教育研究センター

各務同窓会会員の皆様方にお

かれましてはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

また平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて当センターはこれまでと同様、新型コロナウイルス感染症防止に留意しながらの活動に変わりはございませんが、5月から通常の宿泊実習も再開され、以前の活気を取り戻しつつございます。

8月のオープンキャンパスでは人数制限が解除され、多くの高校生で賑わいました。人事面では、位山演習林および柳戸試験林で18年余りに及び教育・研究・運営にご尽力いただいた森林部門の専任教員である石田仁准教授が3月末に惜しまれながらご退官されました。その一方で4月には4年ぶりとなる新任の田口真之技術職員がご着任されました。経営面では、電気料金の高騰、円安やウクライナ情勢の影響による飼料価格の高騰で昨年度は過去最大の赤字になりました。現在は、より一層の生産性の向上と経費削減に努め、経営改善に取り組んでいる次第です。当センターの発展に向け、今後とも皆様方のご指導ご鞭撻

を賜りますようお願い申し上げます。

(大場恵典)

◆動物病院

各務同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

昨年度に引き続き、渡邊一弘が動物病院長を務めさせて頂いております。どうぞよろしくお願い申し上げます。動物病院の現況についてお知らせいたします。

本年4月1日付で内科診療科に北海道大学から永田矩之先生が准教授として、整形外科診療科に山口大学から堀切園裕先生が准教授として赴任されました。若い2名の先生の活躍を大いに期待しております。一方、腫瘍科の岩崎遼太助教が8月いっぱい退任し、帯広畜産大学に准教授としてご栄転されました。岩崎先生は腫瘍科診療の第一線で活躍され、第一種放射線取扱主任者としても動物病院を支えて頂きました。動物病院として

は残念でありませんが、岩崎先生の活躍により、帯広畜産大学の診療レベルが驚くほど上がるのではないかと楽しみでもあります。岩崎先生のこれからの活躍をお祈りしております。

今年度、動物看護師は愛玩動物看護師として国家資格になり、本学動物病院からは、動物看護師20名が受験し、全員が合格して愛玩動物看護師となりました。国家資格化を契機に今後も益々獣医師と愛玩動物看護師が協力して動物病院を盛り上げていきます。

令和4年度の診療収入は、臨床教員2名の退職による影響があり、一昨年度の5.7億円から5.2億円とわずかながら減収となりました。多くの方のご尽力によって、迅速に人員の補填がかない、今年度中に減収を回復し、前年比収益が向上することを目指しています。さらに9月から新リニアック(放射線治療機)が稼働し、これまで以上に症例数を受け入れることが可能となることから、獣医系大学17校中、1位(これまでは4位)の診療収入も夢ではありません。

今後も動物病院は、二次診療施設としての高度な診療体制を維持し、東海地区の獣医療の発展に貢献するよう努力してまいりますので、動物病院の運営にご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

(渡邊一弘)

◆野生動物管理学 研究センター

応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター(以下、研究センター)は、岐阜大学における野生動物研究の中核を担う組織として、特に、野生動物管理に関する研究分野横断的に推進する役割を担っています。2022年4月1日、岐阜県との共同組織として「岐阜県野生動物管理推進センター(推進センター)」が発足し、野生動物管理の実践や地域貢献に主眼を置く組織として学内に設置されました。両センターは、主たる活動内容は異なるものの、互いの補完的連携を前提として設置されています。具体的には、研究

センターは、推進センターが実施する研究・教育・人材育成を支援する役割も有しています。

昨年度は、両センターの有機的な連携を確立することを目標に掲げ活動してきましたが、その

目標が達成された本年度は、本

連携をさらに強化しながら、調査研究、人材育成、啓発活動など、

様々な活動を展開し、これらの成果を社会に還元していく所存

です。引き続き、ご指導・ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいた

します。

(伊藤直人)

◆共同獣医学教育開発

推進センター

各務同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこと

とお慶び申し上げます。

平成25年(2013年)に岐阜大学・鳥取大学の共同獣医学

科の設置と同時に、それぞれに「共同獣医学教育開発推進セ

ンター(以下、センター)」が組織されました。センターは、

学生への獣医学教育の質の向上

と発展に寄与することを目的とし、以下の2つの使命に取り組

んでいます。1. 獣医学共同教育の推進、2. 連携・共同教育

法の調査・開発研究・成果発信。

<https://gf-idvnm.jp/center/>

令和元年度(2019年)に最初の共同獣医学科の卒業生を

輩出して以来、令和2年度(2020年)からは改善・改定さ

れた新しいカリキュラムが開始されています。コロナ禍の影響

により、対面講義や教員・学生の移動が制限されたり、実習が

制約を受けたりするなど、予期せぬ状況に対応しなければなら

ないことが多々ありました。しかし、令和5年度(2023年)

は、数年ぶりにコロナ禍以前の共同教育に返ることができまし

た。今後も両大学は予期せぬ状況となったとしても柔軟に調整

し、遠隔講義やオンデマンド講義などを活用しながら、獣医学

教育の質を低下させないよう努めてまいります。

今後とも同窓会の皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

(猪島康雄)

◆家畜衛生地域連携 教育研究センター

(GeFAH)

各務同窓会の皆様には、ます

ますご健勝のこととお喜び申し

上げます。

GeFAHは、2015年に設置

され、8年が経過しました。こ

れまで、近隣の自治体や畜産関

連事業者と様々な課題に取り組

んできました。教育面では、岐

阜県家畜保健衛生所、NOSA

I岐阜、名古屋市食肉衛生検査

所等との連携による講義や体験

型実習を通じて家畜衛生学関連

教育を充実させ産業動物に興味

を持つ学生を増やすことを目指

しています。特に、応用生物科

学部附属岐阜フィールド科学教

育研究センター(FSC)と協

力して、鳥インフルエンザ防疫

演習、岐阜市立女子短期大学食

物業養学科との教育連携授業な

ど地域貢献も進めています。そ

の他、令和5年より学内でミツ

バチの飼育がはじまり、近代養

蜂発祥の地である岐阜県に位置

する大学で、岐阜県家畜保健衛

生所、FSC、養蜂関係者と連

携してミツバチに関する調査研究を始めています。その他、牛伝染性リンパ腫(旧牛白血病)、トキソプラズマ病、コロナウイルス感染症、食中毒関連など多岐にわたる調査研究に取り組んでいます。本会報をご覧になつ

ている皆様の中で関心をお持ちの方は、共同研究を含めて、ご相談いただければと存じます。今後ともGeFAHの運営に関し

て、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

(浅井鉄夫)



GeFAHの2種類のロゴマーク

各務同窓会報

新任あいさつ

中川香澄



令和4年10月1日付けで
応用生物科学部食品生命科学
学コース食品発酵学研究室
に助教として着任致しまし
た中川香澄と申します。私

は香川県で育ち、徳島大学医学部栄養学科を卒業
し、管理栄養士免許を取得、同大学大学院栄養生
命科学教育部博士前期課程を修了後、京都大学・
民間企業で働いた後、徳島大学大学院先端技術科
学教育部に進学し、徳島大学より博士(工学)を拝
受致しました。博士課程修了後は、徳島大学・神戸
大学での学術研究員を経て、現職に至ります。

博士課程では、徳島県の地元産業である「藍染
め」に関わる微生物のはたらきを微生物燃料電池
(MFC)へと応用することを目的に研究を行いま
した。色素のインジゴは不溶性であるため、水
溶性のロイコインジゴへと還元する必要がある
ます。還元剤を用いることもできますが、私は嫌
気・アルカリ環境の藍染液中に存在するユニーク
な微生物に着目しました。これまでにインジゴ還
元評価法を構築し、新たなインジゴ還元菌を取得
しました。また電気化学的手法を用いて、その微
生物のインジゴ還元メカニズムの一端を明らかに
しました。現在も、アルカリ環境に生息する微
生物が作り出す有用物質の探索と応用を目指
し、引き続き、研究を行っております。

この度は岐阜大学にて熱意ある先生方ととも
に働かせていただくこととなり、大変光栄に思っ
ております。まだまだ未熟者ではございますが、
岐阜大学の教育・研究に貢献できるように日々精
進致します。至らぬ点も多いと存じますが、ご指
導・鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

教員の異動

定年退職 R4・3・31 共同獣医学科 福士 秀人		退職 R4・3・31 フイールドセンター 石田 仁		辞職 R4・7・31 共同獣医学科 岩田 宗峻		R4・10・31 共同獣医学科 西山 祥子		R5・3・31 生産環境科学課程 乃田 啓吾		配置換 R5・4・1 高等研究院へ 高須 正規		昇任 R5・4・1 生産環境科学課程 松原 陽一		R5・4・1 生産環境科学課程 楠田 哲士	
R5・4・1 共同獣医学科 西飯 直仁		R5・4・1 共同獣医学科 椎名 貴彦		R5・4・1 応用生物科学課程 山内 恒生		R5・4・1 応用生物科学課程 今泉 鉄平		R5・4・1 生産環境科学課程 岡本 朋子		R5・4・1 共同獣医学科 平田 暁大		採用 R4・10・1 応用生命科学課程 中川 香澄			

教員・旧教員の受賞

加藤宏治	名誉教授	瑞宝中綬章	令和4年4月29日
大西健夫	教授	2022年度農業農村工学会賞 著作賞	令和4年8月30日
中野浩平	教授	農業食料工学会学術賞	令和4年9月13日
杉山 誠	副学長 (元応用生物学部長)	第73回岐阜新聞大賞受賞 [学術部門]	令和5年2月11日
西津貴久	教授	日本農業工学会フェロー	令和5年5月13日
永田矩之	准教授	2022年JVMS優秀論文賞	令和5年6月2日
正谷達膳	准教授	2022年 Good Reviewer賞	令和5年6月2日
川島光夫	名誉教授	令和5年度岐阜市功労受賞 社会福祉功労	令和5年7月3日
前田貞俊	教授、	令和5年度獣医学術中部地区学会地区学会会長賞	令和5年9月3日
永田矩之	准教授		
池田 敬	特任准教授	2023年度日本哺乳類学会奨励賞	令和5年9月9日
楠田哲士	教授	日本野生動物医学会論文賞 第8号	令和5年9月23日

福士秀人教授の 最終講義を終えて

早いもので獣医微生物学研究室教授 福士秀人先生がご退職されて半年ほどが経とうとしております。福士先生の最終講義は2023年3月3日に101多目的ホールにて行われました。40年以上に渡る先生の研究・教育活動を拝聴させて頂き、岐阜大学への福士先生のご貢献の大きさに改めて感銘を受けた次第でございます。最終講義後は、茶話会も開催することができ、先生とゆかりのあるたくさんの方々のご歓談頂きました。また、6月には獣医微生物学研究室の同門生を中心に「福士先生を囲む会」を開催し、福士先生と奥様に感謝と労いの気持ちを伝えました。福士先生が去られた研究室で



は学生がよく「寂しい」と言っておりましたが、最近先生を不安がらせてはいけなそうと思ってくれたのか、学生のみんなが研究と勉学に一層動しむようになっております。福士先生が築いて下さった研究と教育の土台をもとに、私も学生も成長していく所存です。福士先生、今まで本当にありがとうございました。

獣医微生物学研究室 准教授

中川敬介

定年退職のご挨拶

光 永 徹



平成16年
(2004
年)4月に
岐阜大学
応用生物

科学部に赴任して早いもので20年の歳月が流れようとしています。前職の三重大学生物資源学部での15年間を加えると、35年間大学の教員として務めさせて頂きました。三重大に赴任した時には農学部から生物資源学部へ、岐阜大に転任した時には農学部から応用生物科学部へとそれぞれ農学部の名前が消えた時期に赴任いたしました。その当時はこれから農学という名前がどんどん消えていくんだらうなと思っていましたが、然にあらず、他の大学のほとんどで今でも農学の文字が学部名として存在しています。三重大の場合

退職予定者のあいさつ

は水産学部と農学部が統合したので理解できますが、岐阜大としては先陣を切つて農の文字を無くしたのが後についてくる国立大学はほとんどなかったのは少し残念な気もしますが、敢えて言うなら独自の性のある学部を他に先んじて創つたということにしておきます。学部名もそうですが、学科ではなくて課程という当時は馴染みのない組織名に戸惑い、また当時の研究室の教授であつた大橋英雄先生から教育組織と教員組織の表を渡されその意味を説明されましたが、私にはよく分かりませんでした。後になってその2つの組織の意味(定義)が分かるようになりましたが、教育と研究をするのにその区別に意味があるのか疑問を持ったまま20年が経とうとしています。応用生物科学部は令和7年度に向けて改組を計画しています。そこでは教育と研究が一体化した専門教育を重んじる組織を創り、これからの社会のニーズに対応できる

高度専門研究者や技術者の人材を育成する地域に愛され世界で活躍できる学部を目指すことになりました。

いま私の目の前には、新渡戸稲造先生の「心清き者は福(さいわい)也」の額が掲げてありますが、稲造先生の名言から心清き者とは、「他人の考え方や見方の違いを認め合い、受け入れられる広い心を持てる人」のことであろうと推察します。これまでの35年間の自分を振り返ると、到底福な人間ではなかったと反省しています。残られる先生方は是非心清き者として将来の学部の発展に大いに貢献されることを期待いたします。

末筆ながら皆様方のご健勝とご活躍をお祈りいたします。



卒業生次第

岩 橋 均



2011
年の「3.
11」を常磐
高速道路で
被災し、

その3週間後に岐阜大学応用生物科学部に赴任しました。微生物工業技術研究所、生命工学工業技術研究所(統合改組)、産業技術総合研究所(統合改組)を経ての就任になります。在任中に岐阜大学と名古屋大学が法人統合したこともあり、3回も組織の統合を経験したことになります。高度成長期を過ぎて、もがき苦しむ日本の行政を肌で感じてきました。

研究所では研究職として、ストレスと網羅的をキーワードに研究を続けていました。岐阜大学への赴任に際しては、研究でそれなりに苦労してきましたので、それを糧として、教育に利用できるのではと考えての赴任でした。研究を続けるというよりは、教育に貢献できるのではとの思いでした。学生に論文を書かせるまでのいろいろな苦労をさせることが教育

であり、それなら私にもできないのではないかとの考えでした。単に実験をさせるだけではなく、研究を自分で考え、仲間や他組織とのコミュニケーション、海外での活動、等々が苦労には含まれます。この苦労は将来、社会で活躍する糧になると信じてのことです。

いざ赴任してみると教育だけでは困る、研究でも頑張つて欲しいと言われました。しかし、あとになって、岐阜大学での研究とは論文を書くことであるということが分かりました。私の考えでは、論文はあくまでも媒体であり、それぞの論文の中に何を主張したいのか、何を明らかにしてきたのかを記述するものであると考えていました。基礎研究の研究成果は論文の積み重ねによる真実の解明であり、応用研究では世の中の役に立つ製品へと繋がる道筋や製品そのものの原形を作ることであると考えてきました。いずれにしても、私の思いは結果として、岐阜大学のニーズには合っていたのではと考えられています。

13年間



岐阜大学で活動し、多くの学生を世に送り出してきました。教育者になるべく赴任した限り、活動の成果は世に送り出した学生がいかに社会で活躍するにかかっています。岐阜大学での活動の評価は卒業生次第です。

ご縁のあった方々へ

梶 川 千賀子

岐阜大学での所属組織は、次の4研究室です。

2000年4月

農学部生物生産システム学科生産流通管理学講座農業経営学研究室

2004年4月

応用生物科学部食品生命科学課程食品生命科学コース食料経済学研究室

研究室

2011年4月

応用生物科学部生産環境科学課程応用植物科学コース食料経済学研究室

研究室

2017年4月

応用生物科学部生産環境科学課程応用植物科学コース農業経済学研究室

研究室

後任人事は行われないため、

2024年3月末に農業経済学研究室は消滅します。卒業生諸氏には、出身研究室がなくなることをお詫びしなければなりません。『創立100周年記念誌』に、農業経済学分野71年の歴史を紹介していますので、一読して頂ければ幸いです。

2001年9月の牛海綿状脳症(BSE)国内発生を背景に、2004年改組では「食の安全」をキーワードに大幅なカリキュラム改編が行われました。社会科学系科目を担当するなかで、学生からの教科書所望を真に受けて、5冊の法令関係入門書を出版しました。理系学生に向けての法制度解説はどうあるべきか自問自答しながら、企画・構成・執筆のすべてを手がけたことが、大学での研究成果につながりました。

大学生活を24年間積み重ねたというよりも、4月リセットの23回ループしたという感覚です。これまでに、幾つもの講義を担当してきましたが、下手な講義を受講された学生諸氏に対して、御礼申し上げます。岐阜大学教職員の方々には、多大のご尽力を賜りましたこと、深く感謝の意を表します。

喫茶店看板に回転灯が廻って

いるのも当たり前になる程、岐阜に馴染みました。東海道新幹線下り、三河安城駅通過後、E列車窓から見える壁面広告での帰路確認が習いにもなりました。とはいえ、岐阜の猛暑に耐えかね、脱出予定です。退職後は、研究ではなく趣味の読書三昧、たまかな暮らしを目指します。ゆかりの皆様、ご機嫌よう、さようなら。

定年を迎えるにあたって

長 岡 利



私は平成元年(1989年)4月に農学部生

物資利用学科食品科学講座助手として着任し、2024年3月末に定年を迎えます。この間、35年の長きにわたり、大変お世話になりました。これまでの35年間は私にとりましては、一言で表すと「落ち着く暇のない日々」でした。名古屋大学農学研究科博士課程では栄養化学研究室で学んだ後に、生物資源利用学科畜産製造学研究

室の「動物性食品の生理機能」という公募文に目がとまり、応募し、幸い助手に採用されました。動物性食品科学の乳の不思議な世界は予想以上に興味深いものでした。特に、乳成分の寿命や健康に及ぼす影響には驚愕しました。その後、学部改組に伴い、食品機能化学研究室となり、今は食品分子機能学研究室です。この間、1995年から13ヶ月間、ボストン大学医学科に文部省在外研究員として、コレステロール代謝関連遺伝子の研究で留学し、帰国後、当時は未知の領域であった食品成分摂取と遺伝子発現との関連性研究に邁進しました。その後、2001年乳清タンパク質由来のコレステロール代謝改善ペプチド「ラクトスタチン・IIAEK」の世界に先駆けての発見やポリフェノールの媒介する新規脂質代謝調節系を発見する好機などに恵まれ、名実ともに文部科学省の学問分類にある「食品機能学」にのめり込んでいます。同時に、多くの企業との共同研究の中から、2件の特定保健用食品の製品化にも成功しました。さらに幸い、上述の研究を礎に基盤研究Aを7年間で2回連続採択され、IIAEK受容体の発見に繋がりました。2025年には組織委員

科から新設の生物生産システム学科に配属されました。そしてその16年後には、農学部は応用生物科学部へと衣替えし、私は生産環境科学課程の所属となりました。それからまた16年後の令和2年ごろから新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、大学でも授業や会議がオンラインに移行したのは大きな事件でした。そんな中で昨年、大規模改修が完了して建物内の装いも新たに変わったところで、また改組に向けて検討が進められています。時代の変遷を振り返ると、とても感慨深いものがあります。

持って積極的に取り組んで頂けたことはとても有難いことでした。その他にも数多くの皆様に支えられて、土壌を物理的・力学的・化学的・生物学的側面から多面的に捉える視座が養われただけでなく、環境問題や農業問題に対する知見を深めさせて頂くことができ、私なりに教育・研究や学外での社会活動に反映させることができたのは、とても幸いであり、また誠に楽しい経験の積み重ねとなりました。最後に、改めて、お世話になった教員・事務職員・学生、そして卒業生の方々に篤く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

退職のご挨拶

西村直正



昭和60年に岐阜大学に着任して以来38年間に経過し、

来年の3月末に定年退職を迎えることとなりました。着任当初の農学部は各務原から柳戸地区に移転したばかりでしたが、学部内では改組に関するホットな議論が交わされていたことが懐かしく思い起こされます。その帰結として、昭和63年に学部改組が行われ、私は農業工学

ところで岐阜大学に着任前の大学院生の頃、私は土壌の間隙構造のモデル化の理論的研究に取り組んでいたため、着任当初は現場経験や実験技術はほぼ皆無に等しい状態でした。このような未熟な私に対して、周囲の諸先生方からは常日頃より温かいご指導やご支援を賜りましたことは、誠に感謝の念に堪えません。そのお陰で国内はもとより国外でも貴重な現場経験を積み重ね、また土壌はもとより水質分析などにも取り組ませて頂きました。また研究室の学生さんたちからは調査や実験、時には実験装置の製作まで、興味を

退職者記念事業のお知らせ

光永徹教授の

定年退職のお知らせ

応用生命科学課程分子生命科学コースの光永徹教授は、令和6年3月31日をもって定年退職されます。先生は、九州大学大学院農学研究科を修了後、山陽国策パルプ（現日本製紙）生産技術研究所、三重大学生物資源学部を経て平成16年に岐阜大学応用生物科学部に助教授として着任されました。その後、平成21年に教授に昇任され、教育研究に専念されました。先生は樹皮に含まれる縮合型タンニンおよびインドネシアを中心とする熱帯産

薬用植物由来成分の構造解析及び生理機能に関する研究に従事されました。また最近では、ヒノキ科木材精油香気成分の生体生理に及ぼす機能及び作用機序解明により、木材香気が持つ新たな機能性を発掘するなど、先駆的な研究を進められました。学内では応用生物科学部副学部長や同学部長の要職に就き、学部運営に多大な貢献をされました。学外では日本木材学会常任理事、同学会中部支部長、日本木材加工技術協会中部支部長、日本木材学会年次大会実行委員長として木材科学分野の発展に大きな貢献を果たされました。

各務同窓会報

この度のご退職を迎えるにあたり、最終講義を令和6年3月8日（金）14時30分より、応用生物科学部101多目的ホールにて開催致します。また、講義終了後、16時から茶話会を開催する予定です。多数のご参加をお待ち申し上げます。

（山内恒生）

岩橋 均 教授の

定年退職のお知らせ

応用生命科学課程分子生命科学コースの岩橋均教授は、令和6年3月31日をもって定年退職されます。

先生は、平成23年に独立行政法人産業技術総合研究所から本学応用生物科学部教授として転任され、教育・研究に従事されました。

先生の研究は非常に多岐にわたっており、微生物を中心にヒトに至るまでの環境ストレス応答に

関する研究をはじめ、製パンや昆虫食材などの食品への加圧技術の

応用や、乳酸菌を用いた茶葉の付加価値向上、環境DNAを利用した

空中浮遊物の解析などに精力的に取り組まれ、多くの業績を残して

こられました。また、教育活動に

おいては、多くの学生に慕われるとともに、多くの優秀な人材を社会に送り出してきました。

大学運営においては、先生は、教学委員長や分子生命科学コース長などを務められ、学部運営に貢献されるとともに、本学の研究推進・社会連携機構学術院、研究推進・社会連携機構複合材料研究センター、教育推進・学生支援機構、

研究推進・社会連携機構炭素繊維リサイクル研究センター、高等研究院Guコンポジット研究センターなども兼務され、岐阜大学の発展にも大きく貢献されました。

先生のご退職にあたり、令和6年3月8日（金）10時40分より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて最終講義を開催します。

なお、講義の後、16時より同104教室にて茶話会を開催する予定です。多数のご参加をお待ちしています。

（岩間智徳）

梶川千賀子 教授の

定年退職のお知らせ

生産環境科学課程応用植物科学

コース農業経済学研究室の梶川千賀子教授は、令和6年3月に定年

退職されます。

先生は、昭和57年3月に北海道大学農学部農業経済学科を卒業し、農林水産省に研究員として勤務し、平成10年9月に博士（農学）の学位を取得されました。平成12年4月に、岐阜大学農学部助教授として着任され、応用生物科学部准教授を経て、令和3年4月に教授昇任され、

岐阜大学在職年数は24年となります。この間に、農林水産省や地方自治体の各種委員を歴任され、学内では応用生物科学部入試委員長をはじめ様々な役割を担われました。

専門である農業経済分野に加え、担当講義を踏まえて、食品安全と自然資源管理に関する法令関係書も執筆されています。

「拙い講話は忍びない」との事由で、最終講義は固辞されており、退職関係事業の開催予定はありません。先生におかれましては、これまでの貢献に感謝すると共に、退職後のご健勝を祈念申し上げます。

（松井 勤）

長岡 利 教授の

定年退職のお知らせ

応用生命科学課程食品生命科学

コースの長岡利教授は、令和6年3月31日をもって退職されます。

先生は、平成元年4月に本学農学部生物資源利用学科助手として着任されました。その後、助教授を経て、平成19年4月に教授へと昇任され、さらに平成24年4月から

はシニア（上席）教授として教育・研究に従事されました。

先生は、コレステロール代謝改善ペプチド「ラクトスタチン」を世界に先駆けて発見するなど、様々な脂質代謝改善ペプチドの発見やポリフェノールの媒介する新規脂質代謝調節系の解明に貢献されました。こうした研究を通して、日本

栄養・食糧学会賞や安藤百福賞優秀賞を受賞された他、数多くの優秀な人材を社会に輩出されました。

先生のご退職にあたり、最終講義「食品機能学が拓く未来のために」を令和6年3月8日（金）午後1時より、応用生物科学部101多目的ホールにおいて開催します。多数のご参加を賜りますようお願い申し上げます。また、講義の後、午後4時より茶話会を開催する予定です。

（矢部富雄）

西村直正 准教授の

定年退職のお知らせ

西村直正先生は、1985年に岐阜大学農学部農地工学研究室（現在は農地環境工学研究室）の助手に着任され、土壌物理学を専門として当学部における研究・教育に多大なる貢献をされました。

生態系を支える環境の要とも言える土壌は極めて不均質なため、適切な実験系の設定があつて初めて複雑な現象の一端に肉薄できます。西村先生はこのような実験の工夫に大変長けており、様々な実験上の工夫に度々感嘆した記憶があります。

また西村先生は大変教育熱心であり、懇切丁寧な学生への説明や接し方には大変多くのことを学びました。勤続中に4回の教学委員を勤められたことがそのことを雄弁に物語っているように思います。最後に個人的な思い出ですが、夏季フィールド実習中の昼食時の雑談で、日本

の有史以前における人間と自然の関係を巡って、先生の豊かな教養と歴史に対する深い造詣に接する機会を得たことは、幸甚なひと時でした。退職後も、ますますのご健勝を心より祈念いたします。

（大西健夫）

同窓会長賞受賞者

同窓会長賞は、毎年1回優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で平成19年度に設立されました。令和4年度も各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学部および自然科学技術研究科の学生の中から次の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申し上げます。また、なお一層のご活躍を期待いたします。

■受賞者（敬称略）

応用生命科学課程

林 鈴音

生産環境科学課程

林 明日香

共同獣医学科

阪 本 佳 凜

生命科学・化学専攻

伊 藤 克 祥

生物生産環境科学専攻

坂 原 優 里

岐阜大学・インド工科大学

グワハティ校国際連携食品科学技術専攻

伊 藤 遼 太郎

林 鈴音

この度は同窓会長賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。これまで熱心にご指導をいただいた先生方や先輩方、お力添えをいただいた研究室の皆さま、共に切磋琢磨した同級生、そしていつも支えてくれた家族に深く感謝申し上げます。

卒業後は修士課程に進学いたしました。新しい学びや出会いがある中で、より一層充実した日々を過ごしております。いただいた素晴らしい賞を励みに、今後も学びを深め、研究活動に精進してまいります。

林 明日香

この度は、同窓会長賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に

存じます。熱心にご指導くださった先生方、親身に相談ののつくだされた先輩方、ともに勉学や研究に励んだ同級生と後輩、そして支えてくれた家族に心より感謝申し上げます。

大変なこともありましたが、多くの方々のサポートのおかげで実りある充実した四年間を過ごすことができました。今後、大学生生活での学びや経験を活かし、社会に貢献できるよう日々努めてまいります。

阪 本 佳 凜

この度は名誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。親身にご指導いただいた先生や院生、先輩方、共に切磋琢磨してきた同級生や後輩、そして温かく見守ってくれた家族など、六年間で出会った全ての方々に心より感謝申し上げます。現在は、患者様の心に寄り添える小動物臨床獣医師を目指して奮闘中です。日々の出会い全てが勉

強の糸口になり、改めて獣医学の奥深さを実感しています。過去、現在、そして未来の出会いに感謝し、人としても獣医師としてもより成長できるよう努めてまいります。

伊 藤 克 祥

この度は同窓会長賞という名誉ある賞をいただきまして、誠にありがとうございます。周囲の方々からの援助のおかげで、目標への熱意を持ち続け、研究生生活に打ち込むことができました。これまで私に貴重なご指導をくださった先生方、先輩方、共に学んだ同僚、後輩、支えてくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。賞をいただいたことを励みに、今後も精進し続け、皆様に恩返しができるように努めてまいります。

坂 原 優 里

この度は同窓会長賞という名誉ある賞をいただき、誠に光栄に存

じます。熱心にそして丁寧にご指導いただいた先生方や、共に日々の研究に打ち込んだ研究室の皆様、勉学に励み切磋琢磨した同期、そして大学生生活を支えてくれた家族に感謝申し上げます。現在は、目指していた研究職に就き、新社会人として日々精進しております。今後も岐阜大学および大学院で学んだ知識と経験を最大限活かしながら、社会に貢献できるよう一層尽力して参ります。

伊 藤 遼 太郎

この度は、同窓会長賞をいただき誠にありがとうございます。JDでは、海外の研究者と研究への熱意を伝え合い、そして高め合うことで研究を発展させることができました。今回、この努力が認められ、大変嬉しく思います。これは私一人の力ではなく、これまで指導し育ててくださった海老原先生、親身に協力してくださった共同研究者のアラン先生とロビンソン君、そして支えてくださった皆様のおかげだと強く実感しております。心より感謝申し上げます。

吉寄基金

国際標準TS(技術情報)19337:
2016のISO化に関する研究

応用生命科学課程 応用微生物学研究室

岩橋 均

令和4年度吉寄基金を「国際標準TS(技術情報)19337...2016のISO化に関する研究」で頂くことができました。本課題は、既に開発されている「ISO/TS 19337:2016 Nanotechnologies - Characteristics of working suspensions of nano-objects for in vitro assays to evaluate inherent nano-object toxicity」をISO化することを目指すものです。ISO/TS 19337は、担当者が岐阜大学赴任後、開発を進めて2016年に各国の同意の下出版されたものです。ナノオブジェクトおよびその100nmを超える凝集体が、ヒト細胞などの細胞に与える影響評価をする上で必要不可欠な計測項目とその方法を定めた技術情報です。2019年に定期レビューが設けられ、各国から意見が出され、その中にはISO化を求める意見やナノメディカルへの適用を明記するべきとの意見がありました。これをうけ、本課題担当者が再度プロジェクトリーダーとなり、ISOへの開発が始まりました。少なくとも半年に1回90分の会議(ウェブ方式を

含む)を積み重ね、令和4年度は、CD投票、DIS投票が行われ、令和5年5月にISO19337として出版することができました。最も重要な時期に吉寄基金から援助いただき、国内エキスパートとの意見交換や議論に必要な資料収集が容易となりました。吉寄基金は岐阜大学の名声を世界に発信することが目的とされる基金です。残念ながら、ISOには著者名やその所属は記述されませんが、今後は翻訳JISの作成や当該ISOの解説を報告することで、岐阜大学の関与と吉寄基金の貢献を周知していきたいと考えています。

脳の髄鞘形成に関わるアルギニンメチル化タンパク質の同定

応用生命科学課程 橋本 美涼

脳の「髄鞘」は、神経細胞に巻きつく絶縁体構造として神経伝達をサポートします。髄鞘の破壊は「脱髄疾患」を誘発します。しかし、脳の「オリゴデンドロサイト」が髄鞘を作る仕組みの多くは不明です。

私は、オリゴデンドロサイト内タンパクの「メチル化」修飾が髄鞘形成に重要だとの仮説を立て、標的タンパクの探索に取り組むこととしました。仮説の理由の一つは、タンパクのメチル化が、発生や細胞増殖などの生物学的プロセスを制御することが近年明らかにされているためです。二つには、ある種の「メチル化」を欠くマウスでは髄鞘形成が強く抑制されるためです。

ご支援のお陰で、培養マウスオリゴデンドロサイトをを用いてメチル化タンパクを網羅的に調べる系の確立ができました。今後も、髄鞘

関連疾患の創薬に結びつく知見を得ることを目指します。

最後になりましたが、多大なるご支援をいただきました吉寄清己様および御遺族の方々に心より御礼申し上げます。

C19吉寄清己研究支援寄附金の令和4年度及び5年度受領者

石田 秀治

昭和19年9月に農芸化学科を卒業された吉寄清己様の篤志により、平成19年度から「吉寄清己研究支援寄附金」として、応用生命科学課程教員の研究を支援して頂いています。ご遺族様から、ご逝去後もご援助を継続して頂けるといふ吉寄様のご遺志を伺い、本年度も本研究支援寄附金の受領者の選考を進めさせて頂きました。昨年度は同窓会報の発行時期が早く、ご報告が間に合いませんでしたので、本稿において、昨年度と今年度の2年分をご報告いたします。

令和4年度は、岩橋均教授の「国際標準TS(技術情報)19337...2016のISO化に関する研究」と橋本美涼助教の「脳の髄鞘形成に関わるアルギニンメチル化タンパク質の同定」に、また令和5年度は今泉鉄平准教授の「青果物果皮上における可食性コーティングのラマンプロファイリング」と中川香澄助教の「アルカリ性微生物が作り出すユニークなバイオフィルムの解析および応用」に、それぞれ500,000円のご支援を頂くことになりました。先生方には、吉寄様が望んでおられる「応用生命科学課程の名声を高める研究」に邁進頂ければと思います。

【会員の受賞】

鈴木光雄 (P大8)

岩間達夫 (P大9)

稲垣公治 (A大15)

神奈川県県民功労者表彰
(産業・経済)

瑞宝章小綬章

瑞宝章小綬章

令和3年6月16日

令和4年11月3日

令和4年11月3日

(報告が遅れましたことお詫びいたします)

著書「イネ菌核病：病原菌の特徴・動きと発生生態」 翔雲社

支部・会員からの便り

学び・研鑽・仕事の場への感謝

岐阜大学名誉教授 鈴木 文昭（C大23）

新型コロナウイルスの感染が広がりはじめた2020（令和2）年3月、私は退職しました。振り返れば、学部学生生活（C大23卒）、修士課程（京都大学大学院修了）と博士課程（筑波大学大学院3年次中退）の大学院生活を経て、25歳で助手に採用され教授職を62歳で辞するまでの教員生活（学部・遺伝子実験施設、研究科、及び1年半の海外研修（ハイデルベルク大学）、その後6年間の理事・副学長・国際・広報担当）職と、凡そ半世紀を無事過ごすことができました。また、研究と教育は一貫して生化学関連分野を担い、国内外から評価（J-index：30）を受けてきました。これらは、ひとえに諸先生、諸先輩、同僚、学生諸君、家族、事務職員の方々と関係各位のお陰であり、心より御礼申し上げます。以下に「生き方」に関わるエピソードをお示しし、感謝の意を表することになります。

「自然は芸術を模倣する」この一文の意味を説明せよ。高二の秋の実力テスト（国語・論説文）での設問の一部分です。私はこの問題に接した時、頭が真っ白になって鉛筆を動かす手が止まってしまいました。受験の

ために岐阜大学那加キャンパス（各務ヶ原市を訪れた際、国道沿いの「九二八（くには）ガーデン（線対称配置のヨーロッパ式庭園）」が目にとまり、庭園内のベンチに暫く腰掛けていました。びよっとしたら、この難問を解くヒントが得られるかも、と瞑想していました。その美しい庭園は農学部の前身である岐阜高等農林学校時代に造られたとのこと。その時には、ヒントさえ得られなかったものの、「農学」って面白いかと自問しながら帰宅しました。農芸化学科に入学することができ、以来時々「九二八ガーデン」に出向きその難問に挑戦していました。解答への糸口は卒業後もなかなか得られなかったのですが、思いも掛けずに現れました。博士課程の研究で苦しんでいた頃、友人の下宿で偶然に造園学分厚いA4版の書籍が目にとまり、何気なく頁を捲っていた時のことです。私を悩ませていたあの設問と同じ一文を見つけたのです。その文の周辺を読んでいたら、「庭園は芸術であり、自然を模倣している」と解釈でき、生命体である植物を活用した庭園はやがて自然と調和し一体化する（芸術は自然に模倣される）のでは、という考えが浮かんできました。その一文は、アリストテレスによるものでした。学問としての農学は哲学から生まれました。私なりの答を出すまでに10年近くも掛かりましたが、やっと解けたという安堵感と、自信が湧いてきました。今の時代、ChatGPTに問えば、瞬時に回答を返してくれますが、解き方までは応えてくれないようです。岐阜大学という場で、「ぎっかけ」を掴み、「研鑽を積んだ」ことで答えに辿り着いた、と信じています。その後、同様

各務同窓会茨城支部

茨城支部 支部長

浅野 博之（P大16）

新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い規制が大きく緩和されたことから、4年ぶりの総会と懇親会を7月に水戸市で開催することができました。参加者は6人と少なかつたのですが、話題は尽きず、楽しく過ごすことができました。また、凛真寮寮歌を皆で歌いました。学生の頃以来だったのですが、歌詞があれば歌えるものです。とても懐かしく思いました。帰りは、次の週に開催される祭りの飾りつけを見ながら歩くことになり、随分ゆったりできました。

水戸の夏祭りは、「水戸黄門まつり」と言われ、4年ぶりに通常開催されました。コ

な経験を幾度も重ねることで、人生の生き方、研究・仕事の進め方の基本を培っていききました。多くの方も同様な経験をおもちかと思えます。是非共有したいものです。このような環境に身を置くことができたことは、大変に幸運でした。末筆ながら、心から感謝申し上げますとともに、各務同窓会の益々の発展と皆様のご多幸とご健勝を心より祈念いたしております。ありがとうございます。



ロナ前には、3日間で100万人もの来場者があるほど賑わっていました。今年は、

神輿の御渡や山車の巡行に加え、夜に幻想的な光で彩る提灯行列が行われるなど、街に活気が戻ってきました。

「水戸黄門」と言えば、以前に放送されていたテレビドラマの「水戸黄門」を連想される人が多いと思います。「水戸黄門まつり」でも、出演された由美かおるさんなど俳優をゲストに迎えた水戸黄門パレードが10年以上続いていました。もっとも、モデルとなった常陸水戸藩第2代藩主の徳川光圀は、諸国漫遊をしていないそうです。しかし、62歳で隠居した後も西山荘（常陸太田市）で修史を続け、生前に本紀を完成させるだけでなく、大日本史の根幹部分は出来上がったとされています。足元にも及びませんが、少しでも見習いたいと思う日々です。機会がありましたら、是非、水戸や西山荘にお立ち寄りください。

岐阜県高等学校支部

岐阜県高等学校支部

塚原 寿憲（B5）

岐阜県高等学校支部（各務会）は、岐阜県内の理科教員、農業教員、県教育委員会等に勤務している者及び退職者で組織された同窓生の総数は159名です。令和5年度総会・懇親会を6月24日（土）に岐阜市にあるグランヴェール岐山（大垣養老高校担当）で開催しました。会員19名が参加し

来賓として各務同窓会幹事長 応用生物科学部生産環境科学課程環境応用植物科学コース 嶋津光鑑教授 応用生物科学部 副学部長 応用生物科学部共同獣医学科基礎医学講座 海野年弘教授をお迎えし、岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業のお話、東海国立大学機構として名古屋大学との教育連携機構のお話、大学の近況、本県より岐阜大学応用生物科学部に進学した学生の動向、高校での進学指導に求める点についてお話を伺うことができました。総会では、役員の承認、事業報告、会計報告を行い今年度の新入会員の挨拶を行いました。懇親会では、両先生と会員が学部の動向や昔話などを語り合い、有意義で楽し



参加者集合写真



同窓会 大塚浩昭会長挨拶



来賓 嶋津 年弘先生の挨拶



来賓 嶋津 光鑑先生の挨拶



参加者全員で岐阜高等農林学校校歌(愛唱歌)を三唱

いひとときを過ごすことができました。会の終盤には、恒例となっております岐阜高等農林学校校歌（愛唱歌）を参加者全員で歌い、大学の更なる発展を祈りながら一本締めを行い、次年度令和6年6月22日（土）に同窓会を開催することを確認し、和やかな雰囲気の中で会を終えました。

念願の支部総会の開催

愛知県高等学校教員支部

鵜飼 愛一郎（P大19）

新しい年を迎えて程なく、新型コロナウイルス感染症の位置付けを「2類相当」から「5類」に移行することが報道されました。このことを受け、これまで積極的に出来なかった支部総会の開催に向けて大きく動き出すことにしました。しかし、5月の移行後も手放しで喜べる状況ではなく、開催の可否を検討する日が続きました。そのため、開催案内が遅れ、案内到着と締切日が近接するなど、開催まで混乱が続きしました。

そのような中ではありましたが、念願の支部総会をやつと開くことができ、22名が集いました。4年振りの開催です。先輩や同輩諸氏と日常的にお会いすることができない日々を過ごしてきた私たちには、待ちに待った日です。

当日は、本部から応用生物科学部副学部長の山田邦夫教授にお越しいただきました。山田先生からは、母校農学部・応用生物科学部の創立100周年記念式典の内容や格納庫に眠っていた最初の日本製トラクター「コマツD-219」の復活秘話をご報告いただきました。母校の様子をうかがうことで、在籍当時のことを思い出した会員も多かったと思います。

また、その記念行事には、本支部からも3人で出席しました。会場では、創立100周

年の記念に相応しい内容と全国からお集りの同窓の皆さまの熱気に、深い感動を覚えました。最も感慨深かったのは、式典後に拝見した記録映像の「岐大祭」です。あの「先頭棒（戦闘棒）」を備えた神輿や、河原での喧嘩神輿に勝つために、構造物に鉄板を用いた重い神輿の雄姿を見た時には、たわいもないことにこだわり一喜一憂していた学生時代が懐かしく思い出され、同席した仲間との会話も弾みました。

ところで、私は昨春退職しましたが、相変わらず年に一度の本支部の総会（懇親会）を楽しみにしています。しかし、コロナ禍の3年間で出席者の様相は変わりました。お越しになれない先輩方が増え、変わって自分とその立場になりつつあるのです。

今回の総会では、新たに選任された橋本支部長に、無事にバトンを繋ぐことができました。6年間務めた支部長の任を終えることができました。

したのも、会員の皆さまのおかげであります。感謝申し上げますとともに、100年を迎えた母校農学部・応用生物科学部と、本支部の発展を心から祈念いたします。



岐阜大学各務局同窓会愛知高校支部 令和5年6月17日

鹿児島県鹿屋市の旧海軍特攻基地訪問記

昭和42年林学科卒業 鰐部 隆義（F大15）

昨年末（2022年）念願であった鹿児島県鹿屋市の旧海軍特攻基地を訪れた。

ふとした偶然からそこに農学部の前身である岐阜高農林学校林学科の大先輩である福井県出身の西森秀夫氏（昭和16年12月繰り上げ卒業後、9期海軍予備学生）の石碑があることを知ったからである。

特攻基地と言えば同じ鹿児島県の知覧が有名で、すでに観光地にもなっていて連日全国から修学旅行生も含めて多くの人々が訪れている。

しかし鹿屋の旧海軍の基地跡は閑散としていて殊に西森氏とその部下を含めた18名の碑がある鹿屋市の串

良海軍航空隊跡地周辺はひっそりとしていて殆ど人影も無かった。現在は慰霊塔の他、串良平和公園としてレジャープールや野球場、陸上競技場等整備されている。碑は現在の国道となっている当時の滑走路跡（慰霊塔から北へ1,200m、西へ1,300m）の交差点付近にひっそりと建っている。



西森秀夫海軍大尉の原隊は、茨城県百里浜海軍航空隊でそこで教官をしていた。

そこから神風特別攻撃隊・常磐忠華隊として鹿屋市の串良海軍航空隊基地に移動して昭和20年4月12日午前11時5分、800kgの爆装をした97式艦爆6機に17名の隊員を率いて沖縄海域に特攻出撃、当日15時20分戦死、行年27歳。戦死後中佐に昇進。

特別攻撃隊（特攻隊）の出撃地の鹿屋基地等の経緯や歴史は海上自衛隊鹿屋航空基地史料館に展示してあります。なお各種資料は資料館の館長さんからいただきました。

西森 秀夫

作戦方面	潜水二号作戦
報告番号	143
出撃艦名	神風特別攻撃隊常磐忠華隊
出撃日時	20.04.12 11:05
階級	大尉
戦死日	20.04.12
搭乗機・機数	97艦爆 6
生年月日	大正7
年齢	27歳
出身期別	予備学9期
出撃基地	串良
所属部隊	百里原海軍航空隊附乗教官
出身県	福井県
戦死場所	沖縄周辺



戦闘概要

- ・20年4月12日串良基地から97艦爆×6機で沖縄周辺敵水上艦船攻撃のため出撃。
- ・1105～1110 串良基地発進、97艦爆 1区隊・1番機 1105発進。
- ・海軍大尉
- ・西森 秀夫
- ・1442「敵水上艦艇見ゆ」
- ・1459「突撃準備隊形作れ」
- ・1517「我敵艦隊と空戦中」
- ・1520「我空戦中」発進後連絡なきも自爆の算大。
- ・大尉 西森 秀夫（予備学9）
- ・飛曹長 田辺 武雄（偵 練）
- ・上飛曹 春原 宗治（乙 飛 10）
- ・百里原空
- ・97艦爆 800Kg 爆装
- ・報告 143
- ・福井県



各務同窓会報

計 報

昨年の会報103号以後、令和5年10月までに御逝去が確認された方々は、次のとおりです。謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

農 学 科		F大30	亀 田 孝 史	V7	松本（鳥井）康司	E大4	木野村 郁 二
A14	大 音 建 二	農芸化学科		V大1	伊 吹（日美）保	E大5	大 庭 公 一 郎
A18	玉 井 幸 夫	C22	橋 本 傳	V大2	後 藤 悦 男	E大5	藤 田 芳 和
A22	豊 崎 寛	C23	山 田 積	V大3	坂口（神林）和夫	E大9	神 尾 潔
A22	柳 瀬 肇	C25	木 谷 進	V大3	佐 橋 隆	E大15	市 原 暁 三
A24	野 崎 寛	C25	片 野 築 夫	V大4（AT1）	飯 沼 齊	総合農学科	
A25	伊 藤 忍	C25	平 井 輝 生	V大7	都 築 利 元	N大2	安藤（白木）琢磨
A大2	田村（玉木）靖一	C25	山 室 宗 一	V大8	衣 斐 正 典	N大3	唐 崎 健 人
A大5	永 田 晃 康	C大1	佐々木 俊 一	V大9	赤 嶺 一 雄	N大4	鳥 本 亨 一
A大6	鈴 木 恭 一	C大2	伊 豆 健 次 郎	V大9	山 田 哲 朗	N大9	今 飯 田 保
A大11	大 口 富 三	C大4	林 益 司	V大10	安 藤 実	生物生産システム学科	
A大24	宇次原 清 尚	C大6	鏡 味 暢 之	V大14	岡崎（難波）清朗	S大13	今 川 真 志
A大33	小 川 正 樹	C大6	柴 田 正 人	V大15	川 合 是 彰	農村工業実科	
林 学 科		C大8	木 納 弘 充	V大16	林（後藤）正	AT9	宇 高 忠 史
F20	齋 藤 浩	C大14	土 井 信 明	V大17	吉 田 隆 男	AT9	遠 山 善 次 郎
F21	川 節 男	C大17	朝 山 豊 和	V大27	鈴 木 高 成	AT9	吉村（山本）金夫
F25	加 藤 久 幸	C大20	野々垣 恭 一	V大31	船 戸 浩 美	AT10	桂 川 直 衛
F25	長 江 宏 景	C大38	林 昌 伸	V大45	大 西 彩 香	農業専修科	
F大1	中 野 雅 一	農産製造科		農業工学科		SP9	青 井 忠 温
F大3	加藤（中島）多門	M1	貝 崎 栄 一	E1	巖 光 重	SP16	加 藤 芳 藏
F大4	後 藤 多 芳	M2	久 本 秀 夫	E4	櫻 井 滋 郎	SP18	三 枝 善 一 郎
F大7	池 田 馨	M2	平 野 平 吉	E6	板 川 正 三	SP19	黒 田 薫
F大8	磯 島 知 行	M2（AT9）	森 田 信 明	E6	武 藤 肇	農村工業専修科	
F大10	横 井 昭 男	獣医学科		E6	河 村 正 洋	ST	青 山 秀 之
F大11	久 保 田 哲 朗	V2	大 森 康 吉	E大1	小 島 茂 之	旧教員	
F大11	坪 内 紀 一	V5	河 合 昭 二	E大2	荒 井 利 之	旧教員	金 城 俊 夫
F大12	佐々木 孜	V6	榊 原 昭 二	E大3	塚 本 駿	旧教員	田 名 部 雄 一
F大29	小 野 章	V7	加 藤 五 光	E大4	奥 村 昭 博	旧教員	横 部 由 伸

金城俊夫先生を
偲んで

令和5年7月16日に、岐阜大学元学長の金城俊夫先生が90歳にてご逝去されました。

金城先生は、昭和7年8月9日に沖縄県に生まれ、昭和31年3月に北海道大学獣医学部を卒業後、昭和36年3月に北海道大学大学院獣医学研究科博士課程を修了されました。北海道大学助手、助教授を経て、昭和45年5月に琉球大学教授、昭和48年4月に琉球大学農学部長を務められた後に、昭和55年3月に教授として岐阜大学にご着任されました。その後、昭和63年3月および平成6年3月の二度にわたり岐阜大学農学部長、平成4年4月には岐阜大学大学院連合獣医学研究科長の要職に就かれました。平成7年6月には岐阜大学長に就任され、平成13年5月に大学長を任期満了にて退職されるまで本学の教育・研究・管理運営に多大に貢献されました。これらのご功績が称えられ、平成13年6月に岐阜大学名誉教授の称号が授与されました。また、平成20年秋には、瑞宝重光章を受章されました。

金城先生は、教育にもご尽力され、社会に貢献する様々な人材の育成に多大に貢献されました。卒業した講座所属の学

生は、臨床獣医師、国家・地方公務員、製薬・ワクチン製造会社社員、大学教員や国立研究所の研究員などとして多様な分野で活躍しています。その中には、金城先生と同様に、薬剤耐性菌、原虫、ウイルスなどの病原体の研究に従事している複数の大学教員もいます。金城先生がそれぞれの学生に伝えたものは、これからも世代を超えながら社会に広がっていくと確信しています。

私は、金城先生が岐阜大学長にご就任される半年前に、学部学生として獣医公衆衛生学講座に配属されました。したがって、残念ながら講座では金城先生と時間を共有することは少なかったのですが、それでも先生との思い出は、様々な形で深く心に刻まれています。例えば、講座をお離れになる直前の後片付けの際、大量の試験管を洗いながら、陽気に口笛を吹かれていた姿を、今でもはっきりと思い出すことができます。

獣医公衆衛生学講座は、今は人獣共通感染症学研究室に名称を変えましたが、金城先生が築かれた講座の「礎」は、現在も私たちの研究室に確実に引き継がれています。先生が当研究室に遺されたものの大きさを考えますと、深い感謝の念を抱かずにはおれません。金城先生のご冥福をお祈りするとともに、心より御礼申し上げます。

（伊藤直人）

田名部雄一先生を
偲んで

本学名誉教授、田名部雄一先生は令和4年12月、92歳で永眠されました。葬儀は在京の近親者のみで執り行われたとの訃報を受け取りました。ご逝去からかなりの日時が過ぎておりますが、今なお寂寥の感が募るばかりです。卒業生の皆様と共にご冥福をお祈りします。

田名部先生は昭和28年3月東京大学農学部卒業、同年4月に農林省農業技術研

究所に奉職されました。主として鶏の産卵生理を放射性同位元素を利用して調べ、同36年「鶏の換羽に関する内分泌研究」で母校から農学博士の学位を授与されました。1年間米国メリーランド大学家禽学部留学後、昭和43年4月に岐阜大学に助教授として出向されました。岐阜大学着任後は農学部家禽畜産学専攻科で主として生理化学分野の実験・講義を担当されて、昭和50年4月から同講義の主任教授として研究教育の発展に尽力されてまいりました。先生の研究分野は多岐に亘りますが「家禽の甲状腺機能に関する研究」に対して日本畜産学会賞が「家禽の産卵に関する一連の研究」では昭和54年4月、日本農学賞ならびに読売農学賞が授与されております。更に日本犬の起源や鶏およびアヒルの品種や系統に関する研究を進め、家畜・家禽の系統遺伝学的ならびに内分泌学の研究と後進者の指導育成の功勞に対して、昭和62年4月に西川産業奨学財団から、学術功勞賞が授与されております。

学内にあつては大学院委員長、学科主任をはじめ各種委員を務め、さらに昭和57年から平成3年まで9年間に亘つて岐阜大学放射性同位元素共同研究施設長を務め、大学および学部の管理運営に多大な貢献をされました。学外にあっては、日本畜産学会および家禽学会の評議員や理事を務め、また、日本比較内分泌学会の幹事として学会活動に加わり、その発展に寄与されました。また文部省学術審議会専門委員、大学入試センター教科専門委員としてわが国の大学教育の発展に尽力されております。

令和4年9月6日、夏の終わりの屋下り、一通の手書きの葉書を受け取りました。「中村君、いつもありがと！自分は今、岐大時代の23年が思い出されます。その前の農林省研究所時代、後の麻布大学もありましたが、私の中心は岐阜大学時代です。」

同窓に対して先生最後のメッセージです。

（旧職員 中村孝雄）

あとがき

皆様には、日頃から各務同窓会の活動にご支援を頂きまして有難うございます。お蔭様で、さる6月3日に農学部・応用生物科学部創立100周年記念の講演会、植樹、式典、祝賀会を無事に挙行することができました。その内容につきましては、同窓会副会長であり、記念事業実行委員会事務局長を務めて頂いた平工様が、本誌の中で報告してくださっています。是非ご一読頂ければと思います。また、記念事業の一環として100周年記念誌も発行することができました。思えば深い文章や懐かしい写真が満載されています。このような事業を行うことができたのも、ひとえに同窓会員の皆様の有難いご寄付の賜物であり、衷心より御礼申し上げます。また、皆様のご寄付により、今後の学部の教育や研究を支援する基金の創設も可能かと思えます。改めて御礼申し上げます。

さて、コロナ感染症につきましては、今年5月に第5類に移行し、多くのイベントが「4年ぶり」に通常開催されています。同窓会活動におきましても、各支部会の開催や本部からの派遣が自粛されていましたが、本年度から本格的に再開され始めました。各支部におかれましては、遠慮なく同窓会事務にお声がけくださればと思います。100周年記念事業の1つに支部の活性化が掲げられています。各支部のいろいろな取り組みや、ご提案をご紹介頂けましたら、それを各支部で共有することで、同窓会活動の活性化へ繋げられたらと思います。コロナ禍の一側面として、オンラインでのコミュニケーションが取り易くなった面はありますが、やはり対面での交流には何物にも変え難い価値があると思います。今後とも各務同窓会にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

事務局からの連絡

卒論・修論閲覧希望の方は当時所属していた研究室あるいはその系列の研究室へ連絡をして閲覧の許可をとってからお越しいただきますようお願い致します。



寄附金のお願いについて



平成20年から、始めました寄附金制度は趣意書にもありますように継続していきますので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

詳細は同封の「応用生物科学部への寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

お申込みいただきました1ヶ月程あとに、岐阜大学（研究推進部）より、振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

詳しくはこちらを確認してください。

申込書の記入方法

* 申込書に必要事項をご記入の上、下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
岐阜大学応用生物科学部学務係気付
岐阜大学各務同窓会事務局

第104号

令和5年11月30日

岐阜大学各務同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL (058) 293-3411 FAX (058) 293-2841
振替 00820-9-12742
<http://www.abios.gifu-u.ac.jp/kagami/>
e-mail ob-abs@t.gifu-u.ac.jp
(メールアドレスが変更になりました)

別紙様式1号（第3条関係）

国立大学法人東海国立大学機構 機構長 殿

【申込書】

住所氏名を記入してください。

金額を記入してください。

備考欄も記入してください。

寄附金額	金 円
寄附者	研究担当者氏名又は 学術研究助成 研究課題名 (ある場合)
住所	研究課名 (ある場合)
氏名	学生（教育）支援 部局名： ○ 大学（部局）支援 部局名：岐阜大学各務同窓会教育研究支援 基金 その他（右に具体的に記入ください。） 部局名：
備考	備考欄についてご記入ください。 卒 科 卒 回（卒年） 第 回（昭和・平成・令和 年 卒・修） ※ 同窓会会報への氏名掲載を希望されない場合はチェックをお願いします。

注）備考欄には、条件（簡単な研究報告が必要な等）、分割納付の必要などがあれば記入してください。
2. 研究助成金の場合、決定通知等を添付してください。

納入依頼書
送付先情報
(企業、団体などの場合)

送付先住所：
担当部署：
担当者名：
電話番号・E-mail：